1Da-2

北タイの3地域における児童・生徒の間食選択とライフスタイルについて

○宇都宮由佳*　益本仁雄**
(*大妻女大・院，**大妻女大)

【目的】近年，タイは経済化，情報化の進展により，人々の生活は伝統的なものから，先進国に共通した生活へと変容しつつある．しかし，都市部と地方とではかなりの違いがある．発表者らは，1997 年より北タイの都市部，郊外の町，農村の村で，児童・生徒の間食選択の地域差を明らかにし，差が生じる要因を経済，情報，社会・文化の視点で分析してきた．

本研究では，地域差は時間の経過を反映するという仮説のもと，人や物の流れに沿った3地域を新たに設定し，児童・生徒の間食選択とライフスタイルの実態と変容の方向性を検討する．

【調査方法】2000 年 8 月，小5，中2，高2(合計 531 人)を対象に，質問紙・ヒヤリング・観察・文献調査をチェンマイ(都市部)，サムーン(農村部)，ボーケーオ(山村)で実施した．

【結果】①就寝時刻が都市部ほど遅い．②1日の食事数は3回で，食事の時間帯も地域差はない．しかし，都市部ほど朝食の欠食率が高く，特に太ることを気にすることは都市の女子(中2)で高い．③間食の摂取頻度は都市部が高い．④間食選択の基準は，各地域で衛生的，品質のよいもの，体によいものが高い．しかし，山村では価格の安いもの，量が多いものが，都市部では，流行しているものが他の地域より高い．⑤新しい商品の購買行動については，都市部で「真っ先に購入する」や「友人が購入したら」などが認められるのに対して，地方では「関心がない」や「関心はあるが購入できない」が顕著に高い．⑥テレビ，ラジオなどに接する時間について地域差はないが，情報機器の保有率は都市部が高い．